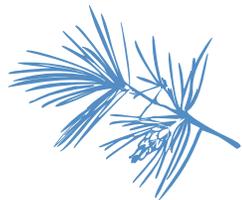


もりぐらし

地域と育む

森林保全と

バイオマス利活用



東急リゾート & ステイ株式会社

地域創造統括部

徳田 圭太



MORIGURASHI

TATESHINA

TOKYU RESORT TOWN

NAGANO JAPAN

本日のお話

1. 東急リゾート&ステイ株式会社とは
2. もりぐらしとは
3. もりぐらしの地域への展開
4. これからのもりぐらしが目指すこと



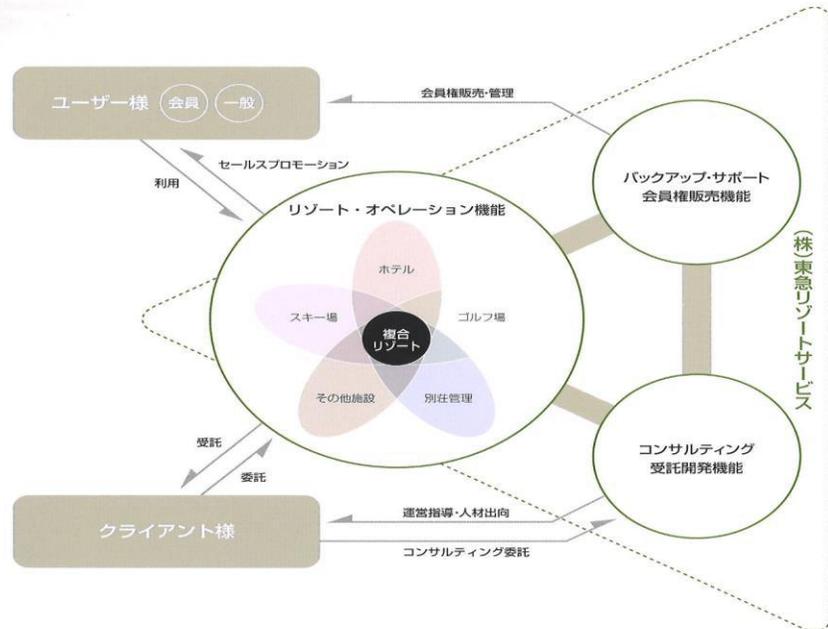
東急リゾート&ステイ株式会社とは？

オペレーションナンバーワン企業として

東急リゾートサービスは、新たな時代のリゾート産業を構築するリーディングランナーとなるべく、全国39事業所、83施設(2017年4月現在)のリゾート施設のオペレーションを一手に手がける運営会社として事業展開を行っています。

会員制リゾートホテル(東急ハーヴェストクラブ)やゴルフ場、スキー場や別荘管理の運営を通して、人材・施設・情報のもつ価値を最大限に発揮し、運営施設一体となったCSやチェーンオペレーションを推進し、バランス感覚溢れる企業を目指しています。

現在は、約40年に及んで培ってきた実績をもとに、運営ノウハウを多様なリゾート施設の受託業務にも活かし、地域の発展と経済活性化に貢献しています。



リゾートホテル事業

会員制リゾートホテル「東急ハーヴェストクラブ」やスポーツ施設等と併設した複合リゾートホテルを運営。長年に渡るリゾートマネジメントで蓄積したノウハウを活かして、お客様に快適なホテルでのリゾートライフをお届けいたします。



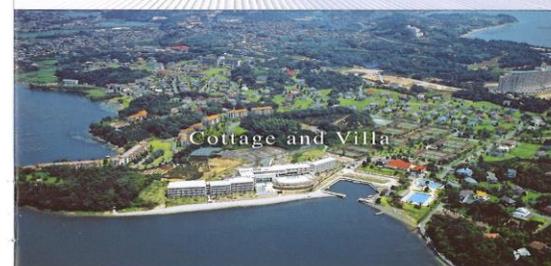
ゴルフ事業

自然地形を活かした多様なタイプのゴルフ場を、全国各地で展開しています。お客様のさまざまなゴルフシーンに合わせて、最良のサービスとご利用方法のご提案をいたします。



スキー事業

全ての年齢層の方が楽しめるスノーリゾートを全国で展開しています。多彩なレクリエーション構成と、レストランや温泉・プールなど充実した施設を揃え、多様なニーズにお応えできる快適なサービスを提供いたします。



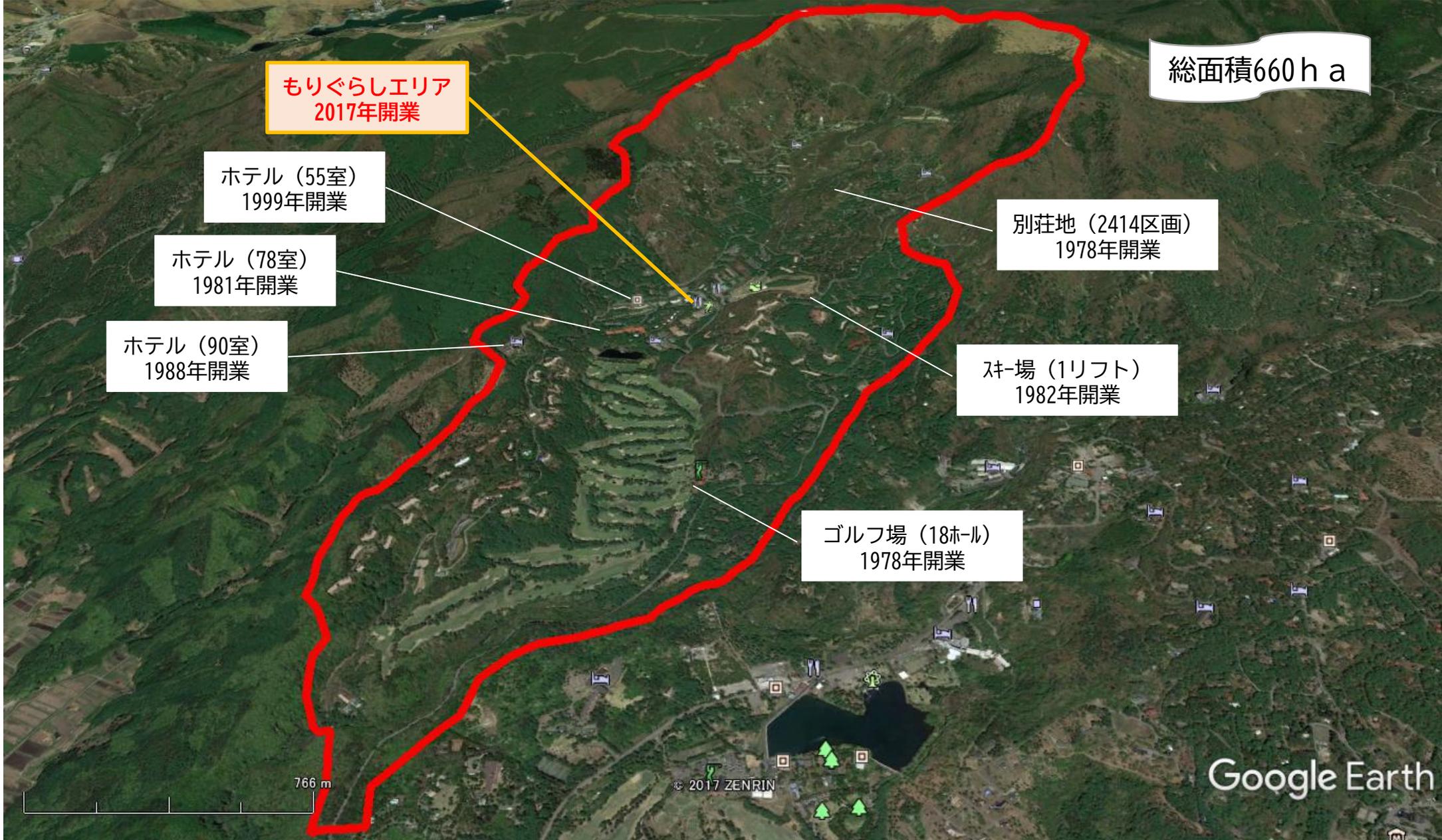
別荘事業

温泉や水道、道路の管理、冬季の除雪作業などライフライン整備をきめ細やかに対応し、快適な環境づくりを心がけています。お客様の大切な資産となる別荘地のクオリティと安全性を維持し、豊かな別荘ライフをサポートいたします。



その他施設運営

東急リゾートタウン蓼科



もりぐらしとは？

■概要

2012年7月の集中豪雨によって、東急リゾートタウン蓼科では複数個所の大規模な土砂災害に見舞われました。タウン内の森林は戦後植林されたカラマツの人工林で、開発後の約40年、間伐等の保全措置がなされないまま、森の持つ本来の力が弱体化していたことが原因の一つとして考えられました。

私たちは将来にわたりタウンを持続的に運営していくにはこの蓼科の森を健全化する必要があると検討を重ね、森林資源を核とした「まもる」「つかう」「つなぐ」の、持続可能な地域循環のサイクルを立案し、2017年その取り組みを「もりぐらし」と名付けました。

その取り組みは基本的に、森林環境の保全を企業の社会的責任(CSR)としてのみ行うのではなく、事業活動を通じて社会的な課題の解決を目指す「CSV(Creating Shared Value:共有価値の創造)」の概念を重視し、事業として成立するからこそ持続が可能であると考えました。

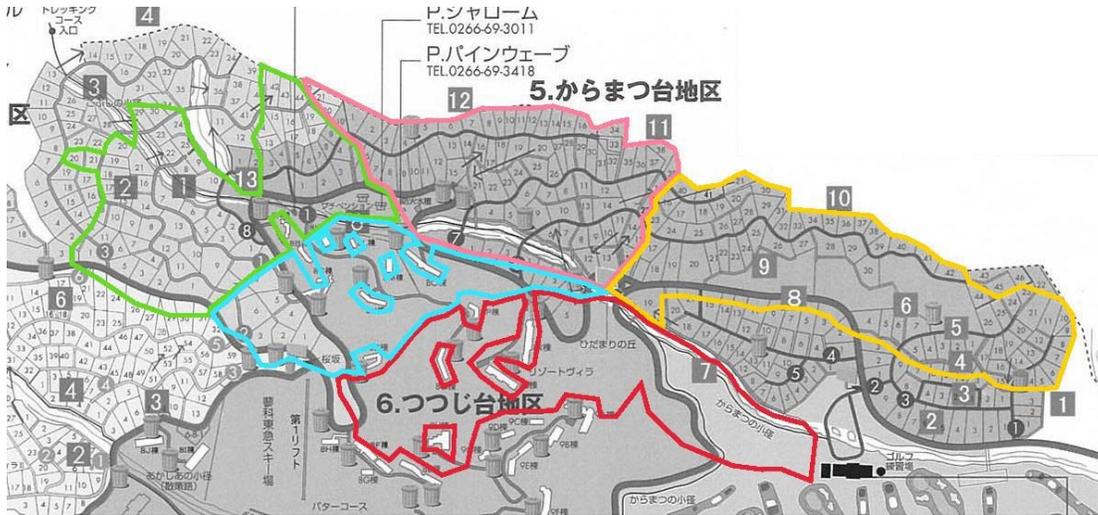


**森にきちんと価値を付加できれば、森は再び地域の宝、
未来に残すべき大切な資産になります。**

実施施策①「まもる」

■ 森林経営計画を策定

- ・ 林業経営体としての認定を受け、森林状態の現況を調査・把握し、中長期の保全施業計画を立てる事により、タウン内樹木の総成長量850m³の範囲で間伐を実施出来る事となった。



伐採時期	林班	小班	伐採材積
2018	106	い、へ	872
2019	106	ほ	497
2020	106	は	914
2021	106	に	760
2022	106	と、ち	872

・ 補助事業は、林野庁の「合板・製材生産性強化対策交付金事業」を活用し、素材の売り上げと併せて実質負担金無しで10.9haの間伐を施業できた。(施工金額：11,600,000円相当)

・ 2019年度より隣接の鹿山財産区直営の別荘地「鹿山村」に森林経営計画地を拡大する事が可能となり、保全間伐の範囲は5ha増大できた。(周辺展開)

★施業後の森林は、光差し込む美しい森林となり、作業道は今後、森の散歩道として整備し活用していく予定。

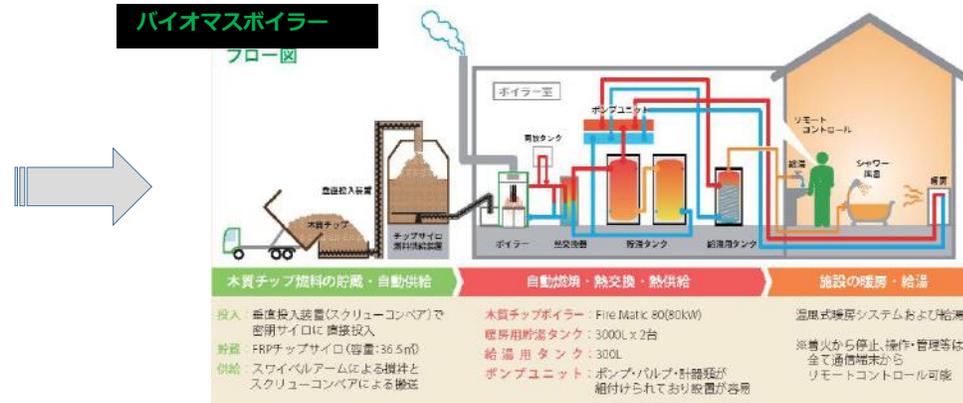


間伐後の森

実施施策②「つかう」

■ バイオマスボイラーの導入

タウン内の施設（ゴルフ場）の化石燃料ボイラーを、バイオマスボイラーに入れ替えた。既存ボイラーは設置後40年経過。灯油を燃料とし、110t/年のCo2を排出していたが、バイオマスボイラーに換装することにより、その全てのCo2排出を抑制できる。（12,500本の成木吸収に匹敵）



■ ボイラー導入は国庫補助事業を最大限に活用

- 環境省再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業のうち、第6号事業（再生可能エネルギー事業者支援事業費）に応募し採択された。（採択率25%）
更に地方公共団体との強い連携が見られることと、地域への普及・拡大を効果的に進める計画がなされているとのことから、高い評価を得ることができ、民間企業としては非常に稀となる補助率2/3を活用できることになった。（交付金額：29,460,000円）
- 燃料は間伐材を利用するため、既存ボイラーの灯油代およそ400万円/年の大部分を節約でき、投資金額は9年で回収を予定する。



チップング作業（動画）



実施施策③「つなぐ」

■ 森林サービス産業の開発

森の魅力、森で過ごす時間のすばらしさを、「森で食べる」「森と遊ぶ」「森に泊まる」に集約した「もりぐらしエリア」をタウン内のセンター地区に設置。

来場いただいたお客様が広くSNS等に発信いただけたこともあり、どちらかというと閉鎖的なイメージのあった東急リゾートタウン蓼科が、地域に開かれたリゾート地として認知されるようになった。



ABOUT

もりぐらし

MORIGURASHI

TATESHINA

TOKYU RESORT TOWN
NAGANO JAPAN

森をまもり、森とともに暮らす。
深い緑に包まれて、豊かな時間と体験を。
あたらしい蓼科の森のストーリーが
ここから、はじまります。

-  **森で食べる**
グラマラスダイニング蓼科
-  **森と遊ぶ**
フォレストアドベンチャー・蓼科
-  **森に泊まる**
クラスベッソ蓼科

東急リゾートタウン蓼科に誕生した「もりぐらし」は、「森をまもり、森とともに暮らす」をコンセプトに、ひとと自然の関わり方をあたらしく見つけ直す取り組みです。カラマツをはじめとする森林資源に恵まれた蓼科の森を舞台に、地域循環型の環境づくりを進めています。

AREA MAP

Parking

Entrance

Produced by

CLASS VESSO

ZIP-LINE

FOREST ADVENTURE

Parking

DOG RUN

THE CAMP

GLAMOROUS DINING

THE ROOF

THE DECK

森で食べる

森と遊ぶ

森に泊まる

グラマラスダイニング蓼科

フォレストアドベンチャー・蓼科

クラスベッソ蓼科

GLAMOROUS DINING

FOREST ADVENTURE

class vesso

木のぬくもりに包まれた上質な空間で、ラグジュアリーな時間を過ごせるのがグラマラスダイニング。焚き火のあるテントヴィラで過ごす「THE CAMP」、ウッドデッキが心地よいプライベートテラス「THE DECK」、大勢でつどってBBQを楽しむ「THE ROOF」。それぞれのスタイルで、森のダイニングを味わいましょう。

蓼科の森を全身で感じながら遊ぶ、フランス発の自然共生型アウトドアパーク。森林をそのまま活用したパーク内では、「自分の安全は自分で守る」が大原則。森の特徴を生かしたダイナミックで難易度の高い「アドベンチャーコース」と、身長110cm以上の方なら誰でも楽しめる「キャンピーコース」が選べます。

見て、泊まって、味わう——。あたらしい別荘体験ができるクラスベッソ。昼の時間は住宅展示場、夜の時間は宿泊できる空間に。蓼科の森でまるで暮らすように、ここでしかできないスペシャルな体験ができます。個性豊かな一軒家から、あなたのお気に入りを見つけましょう。

実施施策③「つなぐ」

■ 森で食べる

「グラマラスダイニング」

豊かな自然に包まれた森のダイニング。

大人数で楽しむBBQから、本格的なテントを導入したグランピングまで、それぞれの楽しみ方に対応できる3種のエリア。
森林教育の場や、婚礼会場としても利用。



■ 森と遊ぶ

「フォレストアドベンチャー」

フランス発の自然共生型アドベンチャーパーク。
森を森のままに利用できる、子供から大人まで楽しめるパークとして大好評。



■ 森に泊まる

「クラスベツソ」

昼は別荘住宅展示場、夜は宿泊し新しい別荘体験ができる新業態。
蓼科の森に「まるで暮らすように」豊かな時間を過ごすことができる。
手頃な大きさとお値段で、別荘需要の掘り起しに非常に有効。



「もりぐらし」の地域への展開

■ なぜ脱炭素なのか、なぜバイオマスなのか

近年、気候変動が原因と考えられる異常気象が世界各地で多発しています。世界全体の平均気温の上昇を1.5℃の水準に抑えるために、CO₂（温室効果ガス）の排出量を2050年ころまでに実質ゼロとすることが必要とされている。日本でも2020年11月に衆参両議院にて「気候非常事態」を宣言し、さらに野心的な目標として2030年度に2013年度比46%の温室効果ガス削減を目指すことを表明する等、世界中をあげて脱炭素を指向する動きが広がっています。

地域では何ができるでしょうか？

温室効果ガス排出削減を目指す方法はたくさんあります。太陽光発電、水力発電、再エネ由来水素、合成燃料、地中熱・・・
地域特性に合わせた脱炭素を考えた場合、

“私たちの地域には豊かな森があります”

かつて私たちは森に入り、材木を切り出したり、薪や炭を作ったりと、暮らしに密接した役割を森は果たしていました。しかし今は燃料事情も建材事情もライフスタイルも変化し、森は放置され荒廃しています。保全間伐を行うことによって森は健全に生まれ変わります。今こそ再生可能資源である「木質バイオマス」をエネルギー源として有効に利活用し、次の世代に渡すことのできる、「安全で美しく実り多い森」を地域に広げていきたいと考えます。

“地域の自然資源を最大限に活かす、後世につなげる”

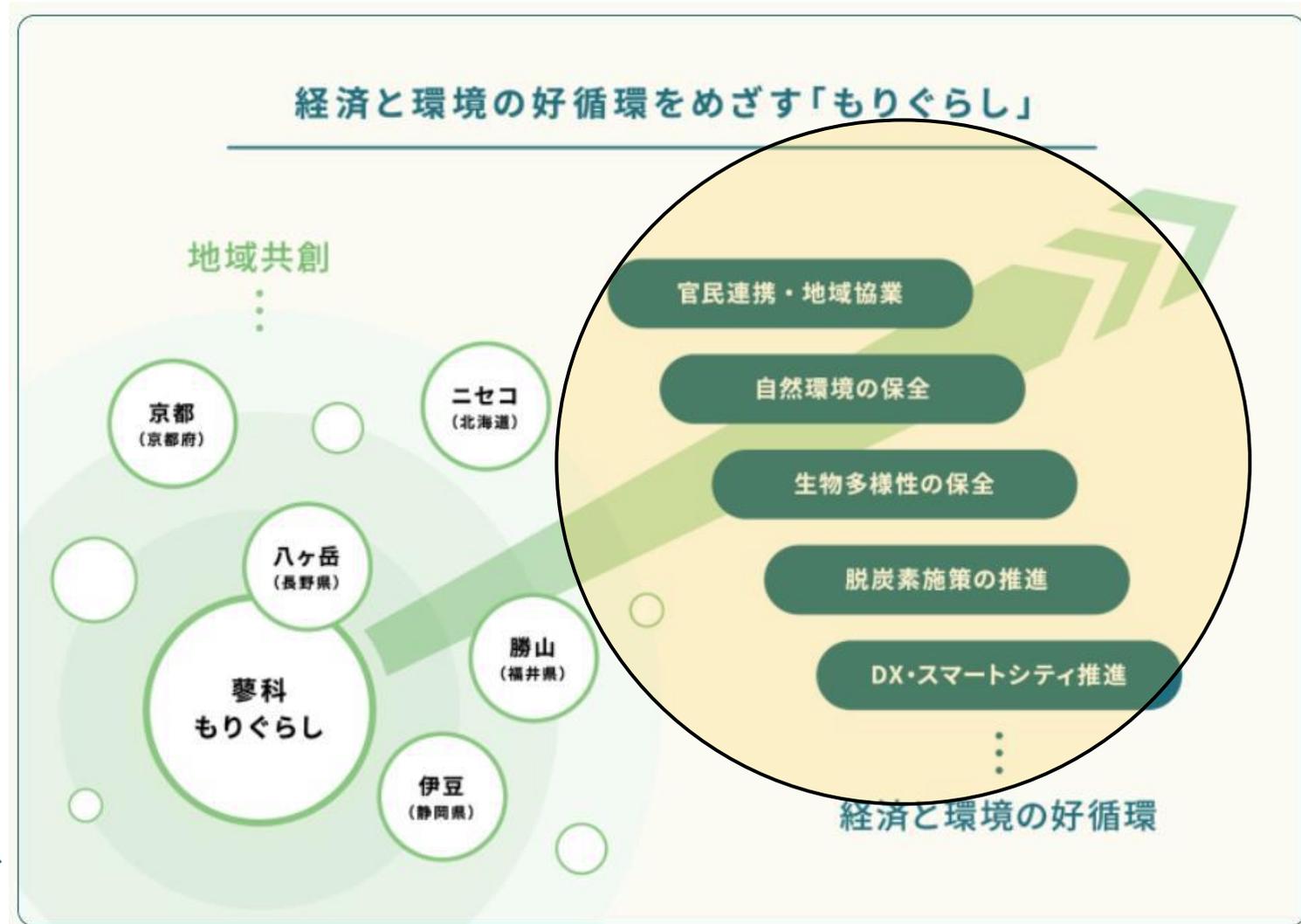


地域共創の考え方

蓼科からスタートした「もりぐらし」は、その活動を周辺地域へと広げ、現在では東急リゾート&ステイのSDGsブランドとして、全国展開の取り組みを加速させています。

地域とともに歩むためには、共通の価値を生み出すパートナーとして地域を捉える視点が大切です。私たちは地域の宝に光をあて、官民連携や地域協業を進めながら、地域の課題と向き合い、森林保全によるレジリエンス強化、サステナブルで質の高いインフラ構築などの課題解決に取り組みます。

私たちがめざすのは、地方創生と事業活動を両立させ、グリーン社会の実現によって経済と環境の好循環を生み出すこと。そのために、さまざまな地域で、共通価値の創造に向けた取り組みを推進していきます。



諏訪広域もりぐらし展開イメージ

茅野から発進した「もりぐらし協定」を茅野主導で展開し、バイオマス利活用という観点で、日本最大級の「地域循環共生圏」を確立する。

東急もりぐらし

茅野もりぐらし

八ヶ岳西麓
もりぐらし

諏訪広域
もりぐらし

茅野市
富士見町
原村

諏訪市
岡谷市
下諏訪町

連携

連携

連携

諏訪広域六市町村の森林面積状況図

岡谷市

総面積: 8,510ha
森林面積: 5764ha
(68%)

諏訪市

総面積: 10,917ha
森林面積: 7553ha
(69%)

下諏訪町

総面積: 6,687ha
森林面積: 5579ha
(81%)

茅野市

総面積: 26,659ha
森林面積: 19,446ha
(73%)

原村

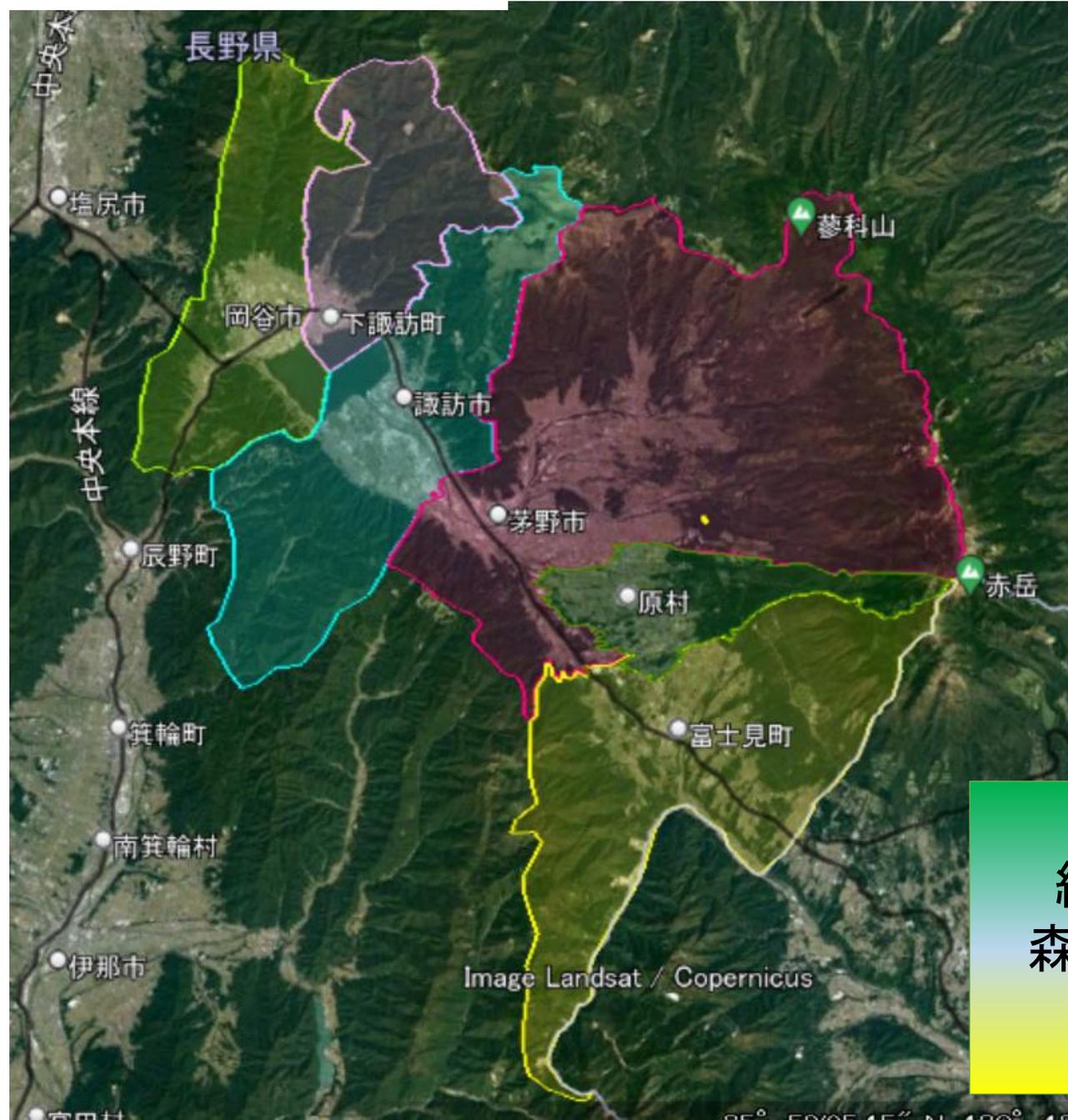
総面積: 4,326ha
森林面積: 1991ha
(46%)

富士見町

総面積: 14,476ha
森林面積: 9,963ha
(69%)

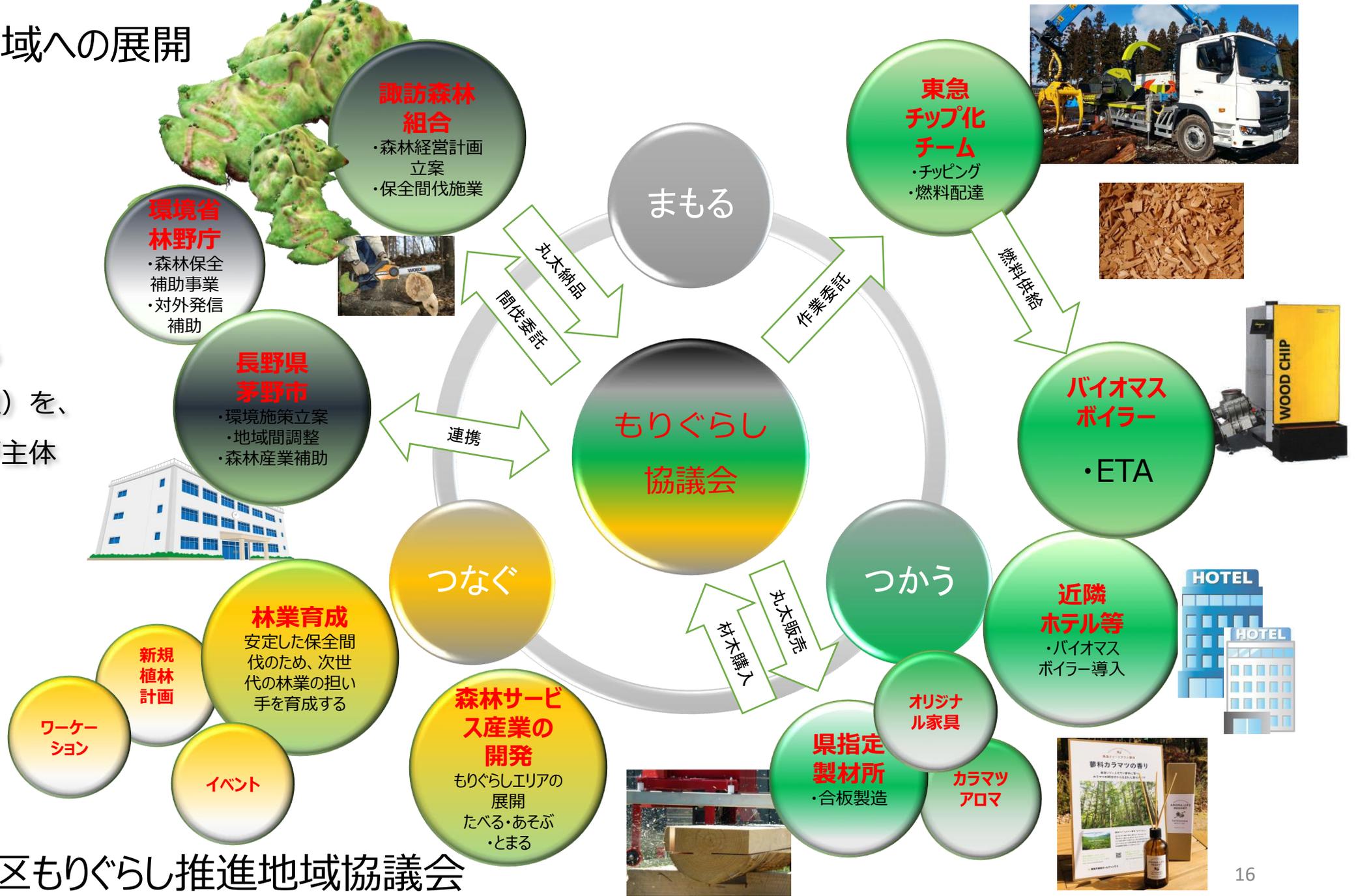
6市町村合計

総面積: 71,575ha
森林面積: 50,296ha
(70%)



「もりぐらし」の地域への展開

概ね50km圏内の
 地域の人、企業で
 木質バイオマスの
 すべてをまかなえる
 アライアンス（同盟）を、
 もりぐらし協議会が主体
 となり展開する。



茅野市鹿山地区もりぐらし推進地域協議会

東急不動産株式会社、東急リゾート&ステイ株式会社、長野県茅野市と 一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会との地域循環共生圏に関する 包括連携協定を締結

地域との連携を深め持続可能な循環共生型の脱炭素社会の創造を目指す

<協定の連携内容>

次の事項について連携し協力することとしています。

- (1) 森林資源を核とした持続可能な地域循環（もりぐらし）の推進に関すること
- (2) S D G s、カーボンニュートラルの推進に関すること
- (3) 再生可能エネルギーの地産地消に関すること
- (4) 防災・減災のまちづくりの推進に関すること
- (5) 安全・安心で快適な暮らしの実現に関すること
- (6) 高齢者・子育て世代に配慮したまちづくりの推進に関すること
- (7) 魅力ある産業・サービスの創出に関すること
- (8) 交流・関係人口の創出及び移住・定住の促進に関すること
- (9) その他本協定の目的を達成するために必要な事項に関すること

これからのもりぐらしが目指す事

官民連携・地域協業

- バイオマス燃料供給センターの開設
- 茅野市直営温浴施設へのバイオマスボイラー導入コンサルティング
- 周辺観光地へのバイオマス展開
- サステナブルNAGANOルールメイク協力→長野県環境課施策協業
- 森のようちえん誘致→野あそび保育ささはら連携

自然環境の保全

- 第二期森林経営計画（5か年）の立案→諏訪森林組合協業
- 間伐実施地への植林
- 自然環境教育イベントの実施→里山整備補助事業を活用し、間伐体験・ブッシュクラフトイベント常設検討等YASO協業

生物多様性の保全

- 30by30アライアンス参画
- OECMルールメイク
- OECM実施施策
- 生態系調査→地域環境計画協業

脱炭素施策の推進

- 森林×脱炭素チャレンジ継続
- J-クレジット継続申請→都市ユニット協業

DX・スマートシティの推進

- WOTA導入計画の継続（水道事業のLCC圧縮検討）
- VPP（VIRTUAL POWER PLANT）導入計画検討→東京大学小林先生連携
- 自動運転コンピューター導入検討→トヨタ（?）
- ドローン配送→V F R（?）
- ゼロエミッション別荘群（個々の建物が自然エネルギーをフルに活かす）

大事なこと



地球温暖化対策とか、SDG sとか、なかなか身近な事として感じられません。
でも、地域の資源を地域で有効に活用して、地域経済を循環させる。環境を良くして社会課題を解決していく。
これもSDG sの立派な一つの実践なのです。

結果として、森が豊かになり、その森を、地域にかかわるすべての人々の、残すべき財産としていくことができる。
暮らしを支える豊かで美しい自然を守り共生する、人間らしいライフスタイルを再構築していく。
これこそが、「もりぐらし」の考える大切な願いです。



ありがとう ございました

発表者名

東急リゾート&ステイ株式会社

地域創造統括部

蓼科地域事業推進室

徳田 圭太

Keita.tokuda@tokyu-rs.co.jp

もりぐらしWEB-SITE

morigurashi.com



TOKYU RESORTS & STAYS

WE ARE GREEN
価値を創造し続ける
企業グループへ



東急リゾートタウン蓼科「もりぐらし」

「東急リゾートタウン蓼科」は、四季折々の体験が楽しめる森のリゾートとして、長きにわたって自然との共生を続けてきました。近年は、住まい方と働き方に多様な関係性が生まれ、リゾート地での定住や二地域居住など、選択肢が広がっています。そして、環境配慮やSDGsへの取り組み、別荘オーナーの高齢化問題など、地域が抱える社会課題とも向き合うなかで、駅からのアクセス改善や、バイオマスボイラーの導入を進め、先進的なリゾートとして進化しています。



株式会社東急リゾートサービス
資産企画統括部 資産管理部
(所属は取材時)

徳田 圭太さん

Message

リゾートライフを通じて、森の魅力に触れ、森で過ごす素晴らしさを感じていただく「もりぐらし」。さまざまな恩恵を与えてくれる森を守るため、私たちは環境保全に取り組んでいます。蓼科の宝である森を維持するために間伐を行い、産まれた間伐材をチップ化し、バイオマスボイラーの燃料として活かす資源循環。地域内でのアライアンスを確立することで、事業性を確保しながら地域が抱える社会課題を解決し、森も地域も企業も元気になる。CSV（共通価値の創造）の考え方で、サステナビリティを体現できるよう取り組んでいます。